

令和6年度第1回茂木高等学校 学校運営協議会 報告

1. 期 日：令和6年6月21日（金）14:00～16:00

2. 場 所：本校図書室

3. 委 員：（敬称略） 欠席者：佐藤 亘

渡辺 晃 （地域住民代表/（株）ヘルシーフーズワタナベ専務）

赤羽 一記 （学校の運営に資する活動を行なう者/同窓会顧問、元茂木高等学校校長） 副委員長

川島 芳昭 （学校の運営に資する活動を行なう者/宇都宮大学共同教育学部教授） 委員長

クエー トオ 玲子（地域住民代表/同窓会副会長）

佐藤 亘 （地域住民代表/同窓会青年部長）

古田土 秀久（保護者代表/茂木高等学校PTA会長）

大瀧 温子 （教育委員会が必要と認める者/茂木町企画課課長補佐兼企画係長）

堀江 順一 （教育委員会が必要と認める者/茂木町教育委員会生涯学習課長）

若色 敏行 （学校の運営に資する活動を行なう者/茂木町立茂木小学校長）

生井 克成 （学校の運営に資する活動を行なう者/茂木町立茂木中学校長）

高野 龍太郎 （学校長）

4. 来賓者（敬称略）

田村 静香（高校教育課指導担当副主幹）

大金 孝也（高校教育課指導担当指導主事）

山岸 峻也（生涯学習課生涯学習振興担当社会教育主事）

鈴木 大吾（教育政策課高校再編班副主幹）

片柳 剛史（教育政策課高校再編班指導主事）

5. 校内出席者

教頭、事務長、主幹教諭、教務主任、学習指導部長、進路指導部長、特別活動部長、教務副主任

6. 議事録

1. 開会

2. 会長挨拶

- ・昨年に引き続き会長を務める。昨年から課題の解決に向かい協力をしていきたい。

3. 学校長挨拶

- ・本校の教育活動も以前のような形に戻りつつあり活気を帯びてきた。コロナ禍で様々な工夫をして取り組んできたことから、新たな知見も得られた。
- ・今年度創立103年目を迎える。地域と一体となって教育活動に取り組んできた。平成15年度より進学型総合学科としてスタートし、進学指導や、「ゆずも学」を中心とした探究活動等に力を入れている。特に「ゆずも学」の取り組みは県内外から注目されモデル校ともなっている。
- ・令和元年度より第二期再編計画の特例校となり学校運営協議会が設置された。令和3年度には、本校内に公営塾「ゆずも塾」が開設された。学校運営協議会では開設当初より本校の魅力化を熱心に協議されてきており、その成果が、ゆずも塾の開設にもつながったものと考えている。

4. 栃木県教育委員会挨拶

- ・学校と地域の連携・協働の重要性が増している。育てたい生徒像を共有して、ともに力を出し合い生徒の成長を支えられる学校づくりを期待している。

5. 委員紹介・来賓者紹介

6. 会則説明

7. 議事

(1) 学校運営に関する基本的な方針の承認

① 学校の現状と課題の説明

ア. 学校概要説明（教頭）

- ・ 昨年の学校運営協議会の報告
- ・ 今年度の学校概要説明資料について
※ 一日体験学習等中学生向けに使用予定。

イ. 学校評価について（主幹）

- ・ 昨年度の学校評価結果より
評価結果及び協議会の意見を受け、検定試験の結果など横断幕の作成と HP の更新回数の増加を実施。学校評価アンケートで該当項目の評価が上がった。
- ・ 評価結果に基づく今後の改善方法について
特に、公営塾（ゆずも塾）を含め地域との連携にさらに取り組む。

ウ. 学習指導について

- ・ 本校のキャリア教育「ゆずも学」について
3年間を見据え、各学年のテーマと到達目標を定め指導に取り組んでいる。

エ. 特別活動について

- ・ 学校行事の実施状況について
- ・ 部活動の主な実績について
今春、陸上競技部・柔道部・弓道部が関東大会出場。
陸上競技部で1名インターハイ出場が決定。

オ. 進路状況について（進路部長）

- ・ 昨年度の進路状況説明
現在も多くの生徒がゆずも塾、学修室・総学室の利用などで、熱心に学習している。

カ. 本校の施設設備について（事務長）

昨年度は、南校舎の階段手摺の設置、南体育館トイレ（車いす利用可）の修繕、防犯カメラの4カ所設置。今年度は、柔剣道場の内外の改修工事。更に、南校舎トイレの改修（多目的トイレも含む）を進めている。（着工 R7 年度）

② 学校運営に関する基本方針の説明（校長）

- ・ 学校の教育目標、目指す学校像、募集する生徒像
- ・ 経営方針
学習指導の充実、進路指導の充実、生活指導の充実、指導体制の構築、魅力ある学校づくり
- ・ 今年度の重点目標について

(2) 学校の魅力化、特色化について

① 茂木町公営塾について

- ・ 現在の在籍生徒数は、210名（1年生43名、2年生78名、3年生89名）。

今年度は200名を超えるのが早い（令和5年度は昨年10月）。入塾の理由は、「学校の先生に勧められたから」が、今回は20%と倍増。1年生の積極的な出席が目立つ。

- ・茂木在住の生徒が32.9%、益子の26.8%
- ・教科学習支援の状況としては、昨年の塾生の実績が刺激となり難関大学を目指す傾向が現れている。公務員を目指す生徒もいる。
- ・探究学習支援（課題研究活動支援）では、昨年につきイルミネーション企画に取り組んでいる。その他、町内のスタンプラリーに関する企画や道の駅もてぎの商品開発にかかわる企画等を計画。町としても支援に取り組みたい。
- ・土曜公営塾の企画として、塾生が先生になり中学生の学習支援をするというものを考えている。

② 質疑応答

【質問】公営塾は、学校と協働し教科指導だけでなく課題研究支援ができているということか。

→塾スタッフやプリマペンギンノの持つ課題研究活動の指導のノウハウを学校側も参考としている。（課題研究活動の指導について現職教育の機会を設けた。）

【質問】探究活動・課題研究活動が生徒の学習意欲の喚起にも役立っているのか。

→課題研究活動により、学びたいこと・やりたいことが明確になり、進路意識を強く持ち、そのために学習に意欲的に取り組む姿が見られている。

【質問】茂木高校生は、どのくらいのレベルの大学まで進路実現が可能と考えられるのか。

→本校生徒は力を発揮されてない生徒が多く、それに対して学校の指導や塾の指導で大きく伸びていく生徒を多く見てきた。本校の特徴の、総合学科のカリキュラム・ゆずも学のキャリア教育・ゆずも塾の指導で、生徒の可能性を最大限引き出すことができるものと考え、今後さらに難関大学を目指す生徒も出てくるものと期待できる。

③ 各委員からの意見

【意見】令和6年度の高校入試では定員割れをしている。今後、高校再編時の統合などに関して心配する声を聞く。もっと学校のPR（学校紹介）を行ってほしいと思う。

【意見】本校は、ゆずも塾やゆずも学の課題研究活動など、特色があってよい。この様々な体験は、入試で初見の課題を解く際や総合型選抜での受験の際に大いに役立つはずである。

【意見】本校は魅力的な学校だと思う。検定合格の実績も優れている。部活動加入率80.4%はとても高い。茂木中学校は、生徒数減・学級減に伴い教員の数も減っている。今、茂木高校の柔剣道場改修で、茂木高校と茂木中学校柔道部が合同で練習し、高校生が中学生の指導にも当ててくれている。中高の部活動の連携も深められるよい機会にしていきたい。

【意見】小学生は茂木高校生を身近に感じている。さらにふれあう機会を増やして、将来地元の茂木高等学校へ進学するという流れができるとよいと思う。

【意見】茂木高校は地域の誇りである。高校が地域になかったら公共交通機関をはじめとし、地域社会は大きく変わってしまう。町長も、「ゆずも学」・「ゆずも塾」という茂木高校の特色に対して全面的にバックアップする考えである。

【意見】茂木高校は魅力化・特色化という点で現行でもよくやっている。高校生も一生懸命に取り組んでいる。「ゆずも学」や「ゆずも塾」については、地域から厚い支援を受けて成り立っており、保護者や地域の人々は、茂木高校を県立学校というよりは町の学校という意識

で支援し期待している。

【意見】令和５年度の検定取得状況、特に英語検定一級取得には驚いている。今後も横断幕等で生徒の資格取得の実績等を地域に発信して頂きたい

（３）今後のスケジュール

- ・第２回協議会…１０月下旬から１１月中旬
- 第３回協議会…２月下旬

（４）その他

- ・茂木高校が中学生から選ばれる学校として発展するために真岡鐵道の運賃がネックとなる可能性がある。沿線の市町村で、高校生への運賃のバックアップ等は考えられないだろうか。再度検討を要望したい。
- ・授業参観について ２・３年生 「総合的な探究の時間」

８．閉会

授業参観